



### ▶ 住吉川とは

住吉川は六甲山地に水源があり、その急な斜面を下って東灘区内を流れ、大阪湾に注ぐ二級河川です。水源から河口までは約9kmあり、支流を合わせた総延長は36kmを超えます。その水質は、有機性汚濁を表すCODが1.9mg/L、ふん便性大腸菌群数が60個/100mL(令和元年6月現在)と、水浴場水質判定基準に当てはめると「適」区分(適、可、不適の3区分)となる、市内でも有数の清流です。

### ▶ 住吉川の生物

住吉川には、多くの種類の生物が生息しています。貴重な生物もいます。この大切な環境をみなさんと保全していきましょう。



アリアケスマレ

スマレ科スマレ属  
白色に、紫の筋がとともきれいです。  
名前は、花の色が有明の空のように変化に富むことに由来します。住吉川の石垣の間に、現在120個体が確認されています。



アユ

サケ目キュウリウオ亜目アユ科アユ属  
体長20cmを超えます。天然のアユが生息しています。稚アユが、早春に海より遡上し、中下流域に定着しています。成魚は、コケを食べることで有名です。縄張りをつくります。



アオサギ

コウノトリ目サギ科 全長93cm  
背が灰色の最も大きなサギです。長めの鋭いくちばしで、魚などをとります。首をS字状に折り曲げて飛びます。

※アオサギはペリカン目

### ▶ 清流の道

住吉川の河中道路は、昭和38年に土砂を運搬する道路として建設されました。昭和44年までの6年間、1日約1,000台のダンプトラックが往復していたため、ダンプ道と呼ばれていました。土砂の運搬の必要がなくなってからは立ち入り禁止となり放置されていましたが、地域住民の強い要望により、昭和49年、遊歩道として開放されました。その際、遊歩道の愛称が募集され、選ばれた「清流の道」は今なお市民の憩いの場として親しまれています。

### ▶ 増水警報システム

住吉川には、16カ所の増水警報システム(回転灯)が設置されています。ラジオ電波を利用することで、大雨洪水注意報および警報の発表と連動して回転灯が作動するシステムです。

住吉川を利用する人々に増水の危険性をいち早く知らせ、安全を守るために役立っています。

表示説明	
	スロープ
	階段
	回転灯
	清流の道